

四月二日

8990



送呈中

中

大東亞戰爭の戦果に據り我が皇軍の獲得せる占領地域の民衆指導工作に就ては先づ第一に異民族の中より比較的教養ある者を撰定して日本に渡航せしめ、一定の期間（四ヶ月）日本語、日本事情を教授し、日本文化の實情と商工業の發展振りを知悉せしめ、本課程を終業せし者を現地に歸へし現地部隊並に特務機關等の監督下に文化及宣撫工作の第一線に立たしめる考なり。

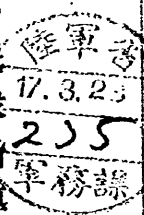
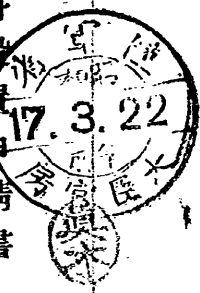
仍而本同盟は加盟團體たる財團法人新興亞會に其の事業を委嘱し五月上旬より實施致度右御許可相成度別紙計畫書相添へ此段及御届候也

昭和十七年三月二十日

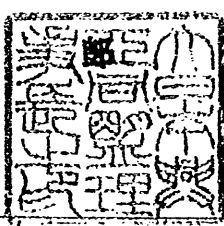
大日本興亞同盟  
理事長 永井柳太

陸軍大臣 東條英機 殿

新興亞學院南方部日語科設置申請書



大日本興亞同盟



(結案詳文)

# 新興並學院南方部日語科設置企劃書

## 要旨

本學院ハ昭和十四年四月ヨリ財團法人新興並會ノ一事業トシテ設立シ、日支兩國提  
房ヘノ捷徑トシテ日本人ニ對シ支那語及支那事情ヲ教授シ既ニ滿三年ノ日子ヲ閱ス。

此ノ間東京ヲ始メ名古屋、京都ト順次分校ヲ増設シ之ヲ三校ヨリ輩出セシ支那語修得

者一十七百名、大陸ノ若一線ニ活躍シ居ル者、二百名ノ多キヲ算ス。右ノ外支那語ヲ

修得シテ支那各地ノ若一線部隊ニ活躍セルモノ亦多數ニ上リ感謝ノ意ヲ表シ來ルモノ

枚挙ニ足ララス

昭和十六年十一月八日日支身交ハ大東亞戰爭ト推移シ其各地言語モ一ナラス、南方

如く是述の如く修習の余儀なく成りて居たり。本学院下シテ公成此の如く  
 予明の昭和十六年四月ヨリ支那語科以外ニ馬來語科ヲ増設シ日本人ニ對シテ用テ語  
 印ヲ速成の如く教授スル事トナレリ。

其ノ後世人一般ニ南方語ノ必要ヲ痛感セシ結果該科ノ希望者激増ク一途ヲ辿リ現在  
 ニ於テハ本学院ヲ始メ各地方分校共断然支那語ヲ凌駕スル傾向トナレリ。蓋シ之時ハ  
 ノ趨勢ト云ハシク、

今後大東亞共榮圈内ノ諸民族ヲ思想的、文化的ニ相提携セシムルニハ先ヅ之ヲ諸民  
 族ノ指導者タルベキ日本人ニ對シテ支那語、支那事情、南方語、南方事情ヲ教授理解セ  
 シムルハ勿論ナル也。

又一方之苛詭地域ノ諸民族ニ對シ日本語、日本事情ヲ教授シ以テ真正ナル皇道日本ヲ理解セシム。

之ヲ基調トセシ精神ノ保有者トナリシ彼等ノ才ニヨリ彼等民族ヲ指導宣撫セシムルコト蓋シ捷徑ナリト信ス。茲ニ於テ本會ハ南方諸民族中ノ有識階級ヲニ部分充練返シ日本ニ呼ビ寄せ之等ニ對シ連成的ニ日本文化及農工商一般ヲ見聞セシメ勉メテ實質的放育ヲナスト同時ニ日本語、日本事情ノ指導放育ヲナシ歸國ノ曉ハ各々ノ地域ニ即セシ文化宣撫工作ニ活躍セシメ大東亞十億民族打ツラ一丸トナリ大東亞共榮圈ヲ樹立セシメ茲ニ新秩序ヲ建設セシメン事ヲ期ス。其ノ要領右ノ如シ。

一 本學院ニ新興亞學院南方邦語科ヲ設ク

本科ノ入學資格ニハ各氏族提擧ニテ大東亞共栄圏ノ確立スルヲ目的トス  
 物理科モモ各氏族提擧ニテ大東亞共栄圏ノ確立スルヲ目的トス

三 本科ノ學科目ハ日本語、日本事情學則參照其他トス

四 本科ノ授業ハ晝間トス

五 本科ノ修業年限ハ四ヶ月トス

六 本科ニ入學セントスル者ハ男女ヲ問ハズ本國ニ在リテ中小學校教師並ニ現在放育

卒業ヲ獲リ又ハ携ラントスル者タルコト

七 本科ノ學生募集方法ハ之等放育者ヨリ撰拔セルモノニシテ現地日本黨尙ノ推薦ニ

據ルモノトス

ハ 本科學生ニ要スル學費ハ特ニ之ヲ徴收セス

九 本科ノ開始ハ毎年度四月トシ爾後三回連續ニテ履行ス

一〇 本科ノ學生定員ハ二年間九百名トシ一回ニツキ三百名ヲ入學セシム、其ノ内譯名

ノ如シ 支那人、泰人、緬甸人、インドネシヤ人、フィリピン人、マレー人

等ヲ六班ニ分テ每班各五十名紀

三 本科ノ講師定員二十四名トス

三 本科ノ每週ノ授講時數ハ十八時間乃至二十四時間トス

新興亞學院南方部日語科豫算

歳入ノ部

6990

一	補助金	二〇〇〇〇〇〇	内	
二	雑収入	一〇〇〇〇〇		
合	計	三〇〇〇〇〇		
三	歳出ノ部			
一	下入件費	四三〇〇〇	月	
二	雑給費	八五二〇〇		
三	校費	七五〇〇〇		
四	修繕費	一五五〇〇		
五	器具什器整備費	九二〇〇〇		

各官廳其他ヨリ

但講師二十四名、職員五名

但手當、給仕三名、小使三名

校費一切

各所修繕

0250

六	通信費	一五〇〇〇〇
七	宣傳費	四〇〇〇〇〇
八	印刷費	一七〇〇〇〇
九	接待費	二二五〇〇〇
十	交通費	二三六〇〇〇
十一	雜費	二五〇〇〇〇
十二	宿料補助費	二七〇〇〇〇
十三	豫備費	一八七四〇〇
合計		二〇一〇〇〇〇

各種印刷費

見學費等

見學旅費ヲ含ム

一又宛三。円九百名分



新興亞學院南方部日語科

學則

第一章 總則

第一條 本科ハ東亞友邦ヨリノ派遣者ニ対シ日本語、日本事情ヲ教授シ其他指導、宣

撫ニ必要ナル學術ノ修得セシムルヲ以テ目的トス

第二條 本科ノ修業期限ハ四月トス

第二章 學科目、學科課程、及、授業時間

第三條 本科ノ學科目ハ日本語發音、讀方、解釋、書取、話方、文法、作文日本事情

日本地理、歴史、地理、風俗、習慣トシ、其他文化施設、農工商業一般ノ説

第四條 本科ノ授業時間、毎週十八時間乃至二十四時間トス

第三章 學期、及、休業日

第五條 本科ハ四月一日ニ始マリ、三冊之ヲ復行シ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 休業日ハ、如シ

日曜日、大衆祝日、本學院記念日、各國記念日、春季、夏季、冬季

第四章 編 成

第七條 本科學生定員ハ一ヶ年九百名トシ一回、入學定員ハ三百名トス 其ノ内譯元

ノ如シ 支那人、五〇、泰人、五〇、緬甸人、五〇、馬來人、五〇、フィリ

ソビエト人、五。、インドネシア人、五。

第五 章 入學、在學、及、退學

第八條 本科ノ入學資格ハ各自本國中華學校若ハ之ト同等以上ノ學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學カマリト認めタル者ニ限ル

第九條 入學志願者ハ本科所定ノ用紙ニ學歷ヲ明細ニ記入シ提出スヘシ

第十條 學生ニシテ退學セントスル時ハ其理由ヲ具シ願出スヘシ

第六 章 成績、卒業

第十一條 本科ノ成績ハ平常成績及ビ定期試験ニ依リテ之ヲ査定ス

第十二條 本科修了ノ合格点数ハ各科成績評定五十点以上ニシテ總平均点六十点以上ヲ

相々トス

第十三條 修了者ニハ所定ノ卒業証書ヲ授與ス

第七章 賞 罰

第十四條 品行方正精勵修勤學業優秀ナル者ハ特ニ之ヲ褒賞ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ズ

一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認ムル者

二 學力劣等ニシテ卒業ノ見込ナシト認ムル者

三 正当ノ理由ナクシテ引續ク一ヶ月以上欠席シタル者

第 八 章 學 費

第 十 六 條 入 學 金 、 授 業 料 一 切 之 ヲ 徵 收 セ ザ ル ヲ 以 テ 原 則 ト ス

第 十 七 條 宿 白 料 其 他 各 自 之 負 担 ト ス ル モ 一 部 之 ヲ 補 助 ス ル コ ト ア リ